



平成29年度

学校評価報告書

帝塚山幼稚園



学校法人帝塚山学園

平成 29 年度学校評価について

帝塚山幼稚園は、平成 29 年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、保護者を対象としたアンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山幼稚園
園長 塚本 真紀

1. 総括

建学の精神	「社会に有為な人材を育成する」	
本園の重点目標 (教育目標)	「生きる力の基盤と学びの基礎の育成」 “一人ひとりの個性を大切にし、気品と礼節のある子ども、強健な身体と豊かな感性、自律的精神をもつ子どもを育成する。”	
前年度の成果と課題	<p>[成果]</p> <p>本園独自の取り組みである四季の自然を主軸とした教育カリキュラムにより園児の個性を尊重し、感性豊かな心と社会性を育む教育を実践した。</p> <p>[課題]</p> <p>園児の個性を生かせる主体的な学びを実践する教育を目指し、各家庭とも連携して園児が健やかな心身の成長を遂げられるよう、今後も教員の指導力向上に努める。</p>	
本年度の重点目標	具体的目標	総合評価
1. 保育内容の充実と特色ある保育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育目標の共有化 ② 自然教育の推進・質の向上 ③ 道徳心と豊かな情操の涵養 ④ 強健な身体を養うための教育の実践 ⑤ 子育て支援事業の充実強化 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>保育内容の充実と特色ある保育の実践に関しては、四季の自然を主題にした自然教育を推進した。本園独自の教育課程による活動に対しては、公開保育研究会を実施し、園外の教育従事者150余名からの研究保育に対する批評や講評を教育現場にフィードバックするなど、更なる保育内容の質の向上に努めた。</p> <p>また、園児の心身の健やかな成長を目的とした食育活動を併設の帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科の協力を得て、各家庭と連携しながら取り組んだ。今後も保護者の理解のもと内容の充実に努める。</p> <p>幼稚園の園児募集に関しては、募集活動を強化し、2歳児教育からの入園者は増加したものの、結果としては募集定員を充足させることができなかった。2歳児教育については募集定員を昨年度以上に上回る志願者を得られた。募集定員を充足するべく今後も教育連携室の協力を得ながら更なる広報活動の工夫、展開が必要である。</p> <p>帝塚山小学校への内部進学者はほぼ昨年度と同数だったが、幼小教員間の連絡・連携を密にするなど内部推薦制度の充実化を図った。また、小学校教育への円滑な連携を図れるよう、英語科の幼小連携カリキュラムの段階的实施、それぞれの園(校)内研究会に相互参加することにより、お互いの教育内容の理解に努めた。今後も引き続き実施し、内容を深めていく必要がある。</p>
2. 教育連携の強化	○ 各学校との積極的連携	
3. 教員の意識改革・行動改革推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 研究・研修の推進・充実 ② 学校評価の実施・教員評価の実施推進 ③ 幼稚園リスクの対策強化 ④ 財政健全化策の強化 	
4. 園児募集活動の強化	○ 広報活動の充実と効果的な募集活動の展開	

総合評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

2.-① 自己評価（教育活動に関するもの）

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
教育目標	教育目標の明確化	建学の精神と幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい「生きる力を育み、豊かな心を育てる」という教育目標を設定、周知のうえ実行する。	A	A	4月の職員会議において、本園独自の教育目標を設定・確認のうえ、全教員が共通理解のもと教育活動を実践した。	できるだけ早期に年度の教育目標を設定し、共通理解を図り実践する。
	教育目標の周知	園の教育目標を保護者に各学期ごとに周知を図る。	A		園の教育目標を全クラス保護者会、育友会総会や各学期の保護者会で伝えるとともに、月ごとに掲げた目標を園便りを通じて周知した。	今後も、園便りやクラス便り、つづキッズ便り（園長室便り）を通じて周知する。
指導計画の作成	指導計画の充実	教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成する。	A		進捗状況に応じて、修正を加えながら年間指導計画を確実に実行した。	今後も、園児の実情に即した変更を可能にする弾力性が必要である。
	五感教育の推進	園外での直接体験や本物体験を含め五感教育に取り組む。（各学期複数回）	A	A	教育内容に即した年13回の園外保育を実施し、直接体験による五感教育の実践に取り組んだ。	今後も教育内容に即した本物体験を意識して取り入れていく必要がある。
	自律を促す指導の推進	規則正しい生活習慣の定着と道徳心の養成に向けての指導を定期的に行う。（年10回実施）	A		年間を通じて、園児の実態に応じた指導を毎月1回、年12回行った。	計画と修正を繰り返しながら、今後も実態に即した指導を行う必要がある。
研修	研究保育の実施	外部講師を招聘し、計画的に園内研究保育を行う。（年10回実施）	A		外部講師を招いた園内研究保育を毎月、合計年11回実施した。	今後も継続実施し、研究課題に向けて研鑽に努める。
	公開保育の実施	公開保育を実施し、外部者からの評価を教育の現場に活かす。（年1回実施）	A	A	3学期に、150名余りの幼児教育従事者の参加のもと、外部講師を招いた公開保育研究会を実施した。	今後も継続実施し、更なる園教育の充実を図る。
	研修成果の共有	各学期に参加した外部研修の成果を内部研修などで発表し、教職員の共通理解を図る。（延べ18回参加）	A		各教員が参加した延べ20回以上の外部研修で得た知見を都度報告し合い、教員のスキルアップに努めた。	今後も教員全員が幅広い内容の研修機会をもてるように計画する。
教員評価	教員評価の推進	教員の自己評価の実施と教員の園長による個別面談の実施。	B	B	教員の自己評価結果を全教員間で共有し、個人や園の課題を再確認した。	今後も教員の自己評価を実施し、個人の課題等については園長との面談により明確にしていく必要がある。
教育連携・内部進学	小学校との連携推進・内部進学の充実	帝塚山小学校児童との交流を深め、幼小連携の体制作り取り組む、内部進学を推進する。（内部進学率80%）	B		小学校教員によるEnglish Timeは不定期の実施に留まった。高学年国際交流部による英語の絵本の読み聞かせは年長児を対象に実施した。帝塚山小学校への内部進学率は約70%となった。	帝塚山小学校との交流については内容を検討し、今後English Timeを通して英語科の幼小連携カリキュラムを作成する。
	大学との連携推進	帝塚山大学各学部・学科より有効な情報提供や指導・助言を受け、教育現場に活かすとともに、大学生と様々な交流活動を行う。（複数回実施）	A	B	食物栄養学科学生による給食メニューの作成により、園児と保護者に向けての食育活動を毎月実施した。又運動会や育友会行事を通じてこども学科の学生との交流活動も行い、積極的な教育連携に取り組んだ。	今後も園児やその家庭の実態にあわせた食育指導を系統的に行い、こども学科との教育連携にも積極的に取り組む必要がある。
	各学校との情報共有	各学校の情報を共有することに努める。特に小学校とは教育内容を相互理解できるようそれぞれの園内（校内）研究会に参加する。（研究会への教員参加数）	A		帝塚山小学校の校内研究会に複数の教員が参加し、幼稚園の園内研究会にも小学校の複数の教員が参加することができ、互いの教育内容に触れる機会を持つことができた。	各学校の情報を得ると同時に、幼稚園に関しても今後益々各学校に理解してもらえるように努める必要がある。

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

2.-② 自己評価（学校経営に関するもの）

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己 評価	評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策	
組織運営	教育目標の共有	園長の指導のもと、教育目標の周知を毎学期毎行う。（年3回実施）	A	A 月1回以上の職員会議でそのつど教育目標の周知を図った。	具体的に運営に生かしていく方法についてさらに検討する必要がある。	
	組織体制の整備	園務を教務部、入試広報部、環境部に分掌し、適切な運営とその責任体制を整備する。	A		園の実態に即した園務組織に整備して運営を行い、年2回の中間報告を実施し、全教員間で内容を共有した。	役割と分掌についてより園の実態に即した整備について更なる検討が必要である。
安全管理	学校安全計画の立案・実行	安全管理体制の構築のため学校安全計画を立て、実行する。（複数回実施）	A	A 平成29年度学校安全計画に沿い、2歳児教育園児も含めて避難訓練を合計5回実施した。	これからも幼稚園、2歳児教育、全園児の実態に応じて内容を検討していく必要がある。	
	危機管理マニュアルの整備	日常の安全点検・月1回の園内安全点検を充実させ、危機管理マニュアルの周知を行う。（年10回実施）	A		環境部により月1回、年12回の安全点検を行った。	今後も定期的な施設設備安全点検を行い、適切な処置を行う必要がある。
保健管理	保健機関との連携	地域保健・医療機関との連絡体制を整え、各学期1回程度の指導を受ける。（複数回実施）	B	A 各学期1回、年3回、地域保健・医療機関との連携を図りながら、保健管理を行った。	組織的な連絡・協力体制を構築する必要がある。	
	学校保健計画の立案・実行	学校保健計画を作成し、確実に実施する。	A		平成29年度学校保健計画通りに実施することができた。	これからも幼稚園、園児の実態に応じて内容を見直す必要がある。
	保健管理の充実	園児の健康管理や怪我等に速やかに対応するとともにアレルギーについてのマニュアルに沿って実施する。	A		全職員に対するエピソードやAED等の取扱講習を行い、健康管理の意識を高めた。	今後も継続実施する。
情報管理	個人情報の管理徹底	個人情報の保護、管理を周知徹底する。	A	A 園児の個人情報を適切に保護・管理した。	今後もパソコンによる業務を慎重に行うなど、個人情報管理について教職員の意識向上に努める必要がある。	
	適正な情報の保管	公文書を安全に管理、保管する。	A		職員会議等で、園内外の情報を共有するとともに、情報管理の徹底を図った。	今後も徹底した管理と保管について確認が必要である。
保護者との連携	育友会との連携	育友会と互いに協力し合うとともに、連携を緊密にし、育友会主催行事を実施する。（複数回実施）	A	A 帝塚山小学校との幼小合同花火大会及び幼小合同バザーの2件の育友会行事を実施し、保護者との連携を深めた。	今後も密に連携していく必要がある。	
	保護者ニーズの把握	保護者アンケートを実施し、保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	A		学期末の個人面談で受けた保護者からの要望等について担任と園長補佐が中心となり改善を図り、内容によっては全教職員間で共有した。又、年度末に保護者アンケートを実施した。	保育内容について高い満足度は維持できたが、今後も保護者に向けて丁寧な対応が必要である。
情報提供	教育情報の発信	園便り等で幼稚園の情報や教育内容を、毎月1回発信する。（年10回発信）	A	A 毎月1回、年12回の園便りに加え、各学期ごとのつぎっす便りを通して詳細な情報発信に努めた。	今後も継続実施する。	
	きめ細かな情報提供	「クラスだより」を発信して、情報を共有する。（月2回発信）	A		担任からのお知らせやお願いを「クラスだより」に盛り込んで年間45回以上発信した。	今後も継続実施し、きめ細やかな情報発信に努める。
	ホームページの活用	幼稚園教育や活動など、ホームページの更新に努める。（週1回以上更新）	A		2歳児教育、幼稚園とも保育日は、ホームページのニュース&トピックスをほぼ毎日更新するとともに、動画による園児の活動の発信も積極的に行った。	園の日常の保育活動についての情報を今後も効果的に発信するなどの工夫が必要である。
子育て支援	子育て支援の充実	子育て支援講座の年1回の定期的実施や保護者の子育てに関する相談窓口を設ける。	A	A 年1回の帝塚山大学現代生活学部こども学科教授による講座に加えて、小学校との合同講座も実施し、好評を得た。また、子育てに関する相談窓口を明確にした。	今後も保護者のニーズに応えるべく、継続実施する。	
預かり保育	預かり保育の充実	園児、保護者の実態を見ながら、通常保育期間に加え、長期休業中についても年間20日以上、預かり保育を行う。（実施日数）	A	A 預かり保育は、園児の安全を最優先にして保護者のニーズに応えるべく実施した。また、長期休業中の預かり保育は21日行った。	今後も預かり保育を継続実施する。	

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
園児募集・広報	広報活動の強化	体験保育や発表会等の広報を、子どもや保護者に効果的な案内を行い、幼稚園に対する親密感を感じていただく。(参加者数延べ90人以上)	A	B	保育参観や園児発表、年長児と触れ合う体験保育を実施し親密感を持ってもらった。参加者数は延べ105人だった。	今後も体験保育の内容と時期について検討の必要がある。又、教育連携室の協力を得ながら、更に効果的な広報活動の内容を検討する。
	外部入試説明会への積極参加	外部の入園説明会に参加する。(複数回参加)	B		合計5回の外部説明会に参加し、出願につなげる努力を行ったものの、募集定員を充足させることができなかった。	参加依頼を待つのではなく、積極的に働きかけていく必要がある。
	個別見学への対応	各募集行事についての情報を適時に更新するとともに、園案内の送付も継続的に行う。また、年間通じて個別の園見学を実施する。(参加者数延べ80人以上)	A		ホームページを通じて幼稚園を知った方による個別の見学者に対し、きめ細やかな園案内や教育内容の説明を行った。新入園児以外に途中編入者が多かった。2歳児教育については募集人数より上回る志願者があった。	今後も個別の対応を丁寧に実施し、募集人員の充足につなげていくように努める。
学校評価	学校評価の推進	学校評価を実施し、その結果により教育活動、学校運営の改善工夫に継続的に取り組む。(総合評価「A」確保)	A	A	平成28年度学校関係者評価を実施し、総合評価「A」を確保するとともに、その結果を可能な限り数値化し、平成29年度園運営や教育内容の見直しに役立てた。	学校関係者評価を適切な時期に継続実施し、その結果を今後益々園運営や教育内容の改善に努める必要がある。
学校運営	予算執行の適正化	経費のうち、特に印刷費の節約を図る。(印刷費10%節減)	A	A	策定された「財政健全化計画(小学校・幼稚園編)」について全教職員が理解し、特に事務費の削減に努めた。	今後も教職員一同協力して、物件費節約に努める。

評価は4段階【A：十分である(よくできた)、B：ほぼ十分である(できた)、C：あまり十分でない(あまりできなかった)、D：改善を要する(できなかった)】

3. 学校関係者評価

意見	改善方策
① 入園者数は多少課題が残るが、健闘している。	① 今後も教育連携室の協力を得て、活発な広報活動を行い、募集定員を充足できるよう努める。
② 教員評価の項目がB評価であるが、個人の課題は色々あると思うが、どのような園の課題が出ていたのか。	② 個々の教員のスキルアップや家庭との連携を密にすることで、子どもの健やかな成長に繋げていくことを園の課題としている。
③ 保護者との連携・保護者ニーズの把握の項目で、保護者の要望はどのようなことが多かったのか。今後に生かすことが大事である。	③ 3月末の保護者アンケートでは、大多数の保護者が満足しているとの結果が出た。保護者の要望は種々様々ではあるが、今後も保護者のニーズに柔軟に対応していきたい。
④ 教育連携の項目では、食物栄養学科やこども学科の連携に積極的に取り組んでいる。今後、支援を要する子への対応に大学(心のケアセンター)を有効に利用してはどうか。	④ 今後も大学との連携を深めていきたい。支援を要する子への対応についても、大学(心のケアセンター)を有効に利用することを検討していく。
⑤ 預かり保育を年間21日間実施しているが、フルタイムで働く保護者にとって、もっと増えると助かるのではないか。	⑤ 今後も検討課題にしていく。
⑥ 園内研究保育や公開保育研究会に、どのような講師を招き、どのような意見があったのか。	⑥ 当園教員が所属する研究グループ(保育と表現の会)のメンバーである他大学の教員などからは、当園の教員は自分の保育の課題と目標を明確に持って懸命に努力し、勉強熱心であること、また、個性豊かな保育をしていることも高評価であった。
⑦ 幼小連携として、小学校の英語科教員が幼稚園の英語を指導したり、幼稚園と小学校の教員がお互いの研究会に参加したりするなど、小学校へとの連携がスムーズに進んでいると考えられる。	⑦ 今後も園児と児童の交流のみならず、教員間の幼小連携を積極的にを行い、総合学園としての強みを生かしていきたいと考える。